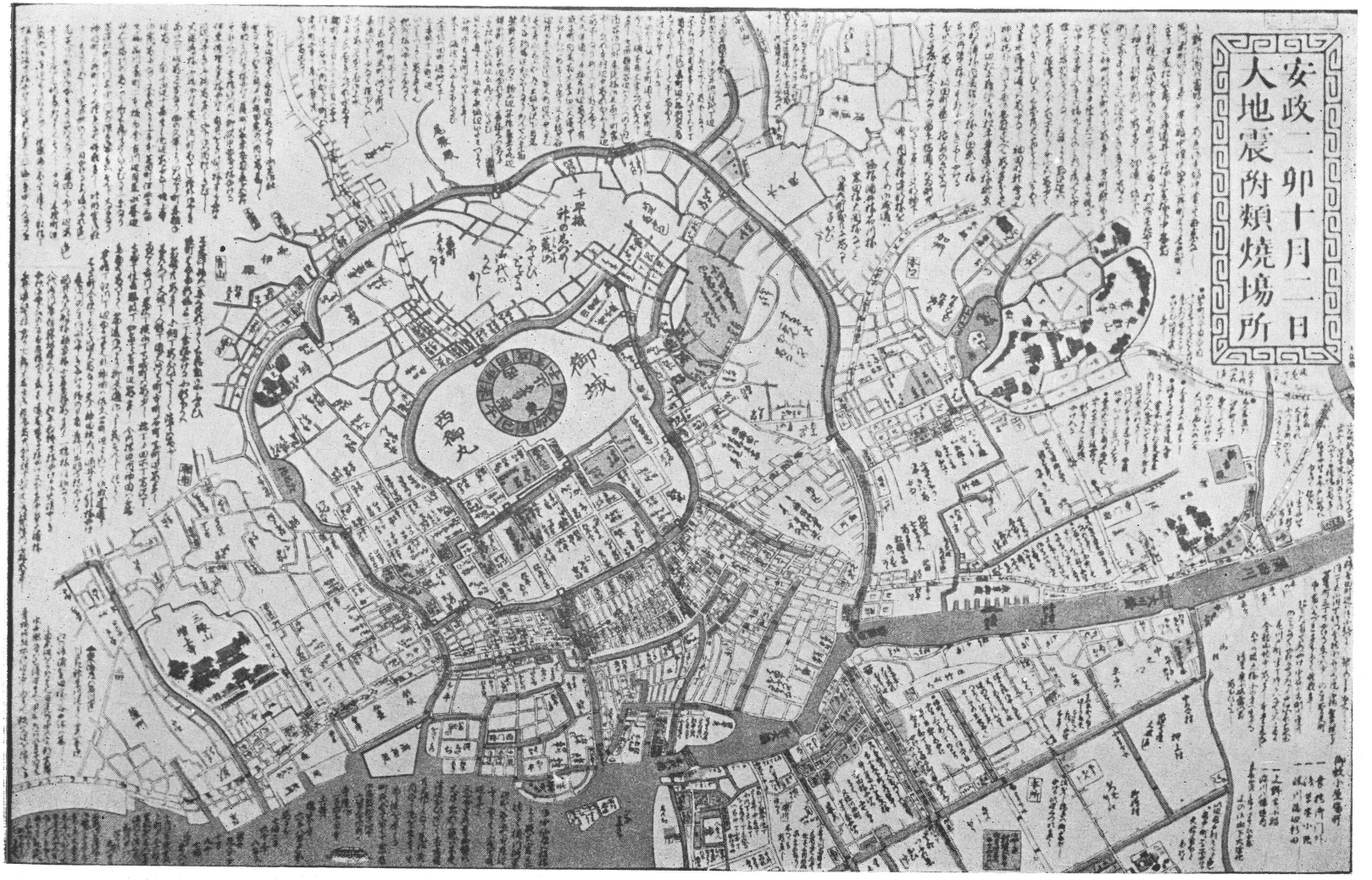
安政二年十月二日（1885.XI.11）の地震後の瓦版と大阪の大火を表示した瓦版



写真－1

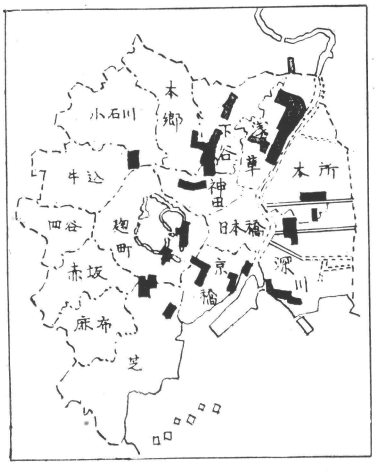
安政2年10月2日（旧暦）の夜4つ（午後10時ごろ）に，江戸地方に大地震があり，江戸市中死者約7,000名（町方と武家方との合算），壊，焼家14,346軒（民家のみ，武家を含まず）震後各所より出火しその火口30余カ所で焼失面積2.3平方km，深川・本所・浅草・下谷は震害最も甚しく，震央地は亀有付近から亀戸へかけた地震と推定されるものである．

写真1はたて横1.5×2.0尺位の大版で黒，桃，青の三色木版刷りである．焼失区域が桃色で明示してあるがここに示したものは縮小率が大きいのと一色のために明かでないが，写真やその他より綜合的に焼失区域を示すと，右図の如くになる．

この地震に引続いて翌安政3年旧8月25日（新9月23日）は大暴風があり，深川洲崎や芝高輪から品川の海岸辺は高潮と風浪のため，また市内全般は風災で破壊家屋が夥しい数にのぼった．芝ノ増上寺前の通路は水が三尺にものぼったとある．写真1よりわかる如く海岸線はそれほど著くは現在と変っていないことを見ると，この時の高潮の大きかったことが推察される．

写真2は大阪の大火を示した瓦版であり，図の大きさは写真1と同じ位で同じく三色木版刷である．

三回の大火は右より旧の11月21日，2月19日と3月21日になっている．大火となった時の風向は夫々西，北東と南風となっている．



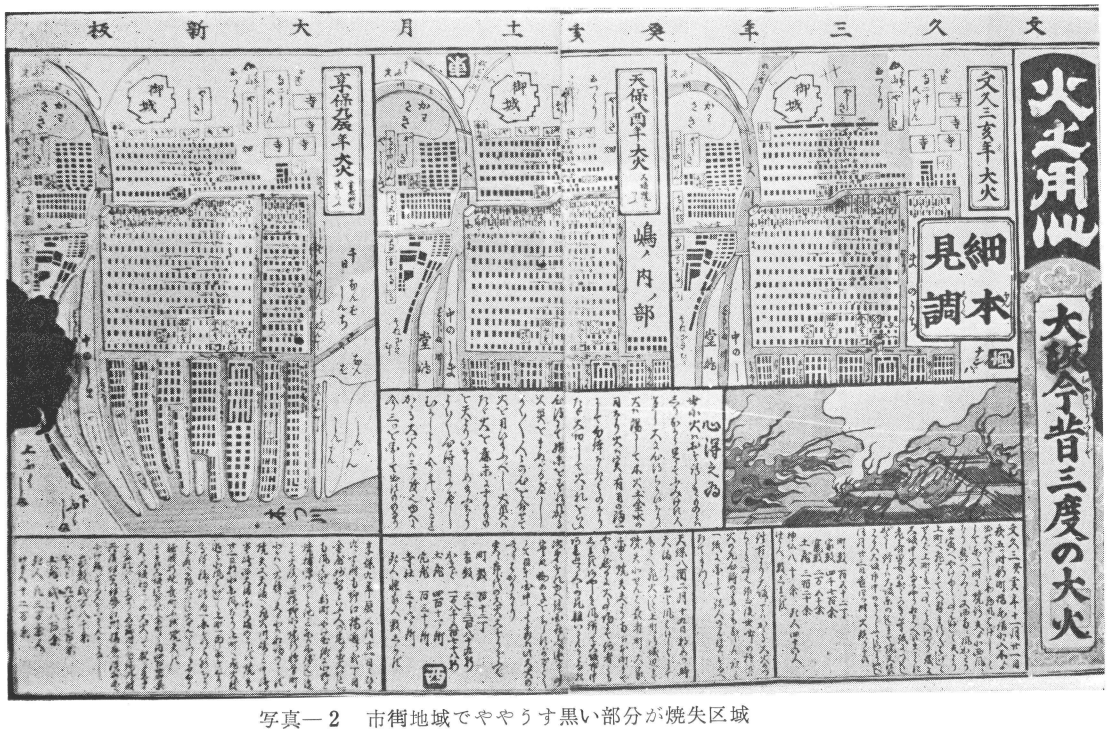
（安政地震の時の焼失区域図）

文中に「心得の為」という文があり，それを記すると，世に火はおそろしきものとは知りながら足にて踏消す人多し，大に心得ちがいなり．

火は湯にして木火土金水の司なり，火は実に有用の隋一にしてもったいなきものなり，ただ大切にして火に礼をいう心得にて始末をすればかかる火災をまぬがるべし．

よくよく人々の心を合せて火を用いまうすべし．火災はただ粗末にするものを天よりいましめ玉うなり，よくよく心得ふべし．云々

気象庁予報部予報課　宮本正明



写真―2　市街地域でややうす黒い部分が焼失区域